

「平成 27 年度学校経営案」における記載内容（県立学校）

1 組織運営について

(1) 組織の在り方や多忙化について

- 多忙化・長時間労働解消、負担軽減、定時退庁日、教職員の健康管理に言及
⇒ 県立 174 校中 31 校
- その他、会議・行事の精選、校務の効率化、校務支援システム導入に言及
⇒ 県立 174 校中 39 校

- ・教職員の健康に留意するとともに、業務の負担軽減や特定の教員に業務が著しく集中しないよう配慮する。
- ・議題や会議の精選を図り、業務の効率化を進め、あわせて長時間勤務の縮減をすすめる。長時間勤務の縮減をすすめるため、ルールをつくり、職員の協力により、平日の消灯時間を早めた。
- ・コンプライアンスを徹底した学校運営を継続し、一層の学校活性化のため、管理職として管理・監督責任を果たす。
- ・各分掌の業務内容の精選を図り、事務処理をできる限り簡素化する。また各分掌間の報告・連絡・相談を密にし、協力体制作りを進める。
- ・教職員評価制度の適切な運用と、現職研修の推進、メンタルヘルスを含めた健康管理に努める。
- ・行事等の見直しを継続的に行い、授業時間確保に努める。学校経営をより効率的なものにするため、円滑なコミュニケーションを図り、常に学校組織や業務内容の見直しと改善を図る。
- ・学校行事等のねらいを明確にし、行事を精選し、授業時数の確保に努める。
- ・コンピュータを利用した事務の効率化をはかる。
- ・長時間労働による健康障害防止（学校安全衛生委員会の充実、定時退校日を実効性のあるものに、年次休暇所得促進、衛生管理医による面接、部活動指導の負担軽減）
- ・多くの職員が生徒への指導の熱心さのあまりに、時間を惜しまず指導や業務に当たるため、健康管理が懸念される。
- ・校務支援システムを活用する。校務に関して教員間の共通理解を深める。（26年度）校務の効率化をはかることで、教員の教材研究や生徒との面談の時間を増やすことができた。
- ・校内における諸会合は、原則として 17:00 までに終了する。
- ・多忙化解消に全職員で取り組む。（行事の精選、業務・会議の効率化）また、分掌グループ制度を効率的に活用し、職務の平準化を図る。
- ・月 1 回教職員の服務に関する自己点検の日を設ける。月 2 回定時退校日を設定する。
- ・事務処理の効率化、マニュアル化を推進する。
- ・原則として火曜日はノー残業デー、第 4 火曜日は定時退校日（はぐみんデー）とする。

(2) 学校評価制度における意見等

- ・ 諸業務を効果性と業務効率性の観点から再検証・再点検し、その改善を図ることで業務の合理化を達成する。若年者とベテランの差が予想以上に大きいことに驚いた。若年教員には、生徒の集中力を引き出すための、より一層の工夫を期待したい。多忙化ではなく多忙感の縮減という取組の意図は理解するが、多忙感には個人差があり、そのギャップをどう埋めるかが課題となるのではないかと。
- ・ 放課後に生徒の質問に応じておられる先生方の様子を度々拝見し、大変な努力をされていると感じた。一方で、先生方の負担が大きく、長時間勤務につながっている。

2 部活動について

(1) 部活動の意義について

- 「部活動の活性化」等を記述する学校は多い。

生徒指導、道徳教育、学校体育、学校安全等に関連して、部活動を人間形成のための活動と位置づけている。

キーワード：「帰属意識」「自己有用感」「達成感」「自主性」「自発性」「自律性」「積極性」「規律」「秩序」「責任感」「異年齢集団」「目標に向けて努力」「人間関係づくり」など

(2) 部活動の登録に関する記載

- 部活動について、1年生は全員登録することを規定する学校が多い。また、参加率の向上と継続に努める旨の記載も多い。

- ・ 毎日部活動に参加している生徒の調査を年2回実施する。
- ・ 部活動へ積極的に参加させ帰属意識を高める。定期的な部顧問会議の実施 部日誌を活用した部員状況の把握
- ・ 未登録生徒の再登録を促した。部活動の定着率80%を目指す。充実した学校生活を目指し、部活動の参加状況を随時把握する。
- ・ 部活動への所属者及び積極的参加者を増やす。部活動の入部勧誘を例年以上に奨励するなど、部活動活性化に向けた取り組みを行う。部活動所属生徒の6割以上が意欲的に活動することを目標に、部活動を奨励する。

(3) 部活動顧問に関する記載

- 全教員がいずれかの部活動の顧問となることを記載している学校もあるが、部活動の指導方針についての記載が多い。外部指導者に関する記載も見られる。

- ・全教員がいずれかの部活動の顧問となり、毎週1回以上必ず活動の現場に出席し、出欠をとり、部員との融和をはかり、技術面のみでなく精神面の指導にあたる。
- ・各部とも複数の顧問を決定し、各種の検査、健康診断の結果を基礎に部員の健康管理を行い、高体連などが主催する教育的効果の大きい大会には積極的に参加するよう指導する。
- ・生徒の自主的な訓練の場であるが、技術指導のできない顧問も消極的態度に陥らず積極的指導監督することによって望ましい人間関係を醸成し、部活動を活発にすべく努力する。下校当番をきめて、生徒の下校指導に当たる。
- ・勉学と部活動の両立については、生徒ばかりでなく顧問も常に配慮し、工夫努力する。
- ・外部講師の活用など、増加する女子のニーズに対応した活動を企画する。
- ・部活動の強化・発展のため、地元外部コーチ導入などの具体的な支援を積極的に活用すること。
- ・教師はいずれかの部活動の顧問として参加、指導するものとする。外部コーチ・地域のスポーツ協会の方を招請し、効果的な指導方法を取り入れる。
- ・指導にあたっては、顧問は部活動の教育的価値を認識するとともに、生徒の実態に即した適切な指導を行うよう配慮する。
- ・特別な時期ではない限り、学校全体での授業後の会議等はできるかぎり簡略化し、顧問が参加できる余裕を生み出す。
- ・職員もいずれかの部の顧問となることを原則とする。
- ・指導にあたっては、顧問教師が、部活動の教育的意義をよく理解し、共通の理解のもとに青年期の心理に即応した適切な指導により望ましい人間関係を育てるように配慮する。
- ・効果的な練習方法を確立し、学習との両立を促す。部顧問会を定期的で開催し、課題に対処する。
- ・部活動指導経験の浅い教員への研修の充実を図る。

(4) 活動時間等について

- 下校時刻を17時から18時までの間で設定している学校が多いが、下校時間を19時としている学校も8校あった。

- ・部活動の活動時間 17:00までに終了し17:20までに下校する。ただし、部活動延長許可の場合は17:20までに終了する。以上を厳守させる。下校時間の厳守、学習との関連について特に配慮する。
- ・部活動を優先する曜日をもうけ、顧問教員が指導しやすい環境を整える。
- ・下校時間の徹底について、顧問や各部部長の協力のもと、放送や音楽なども利用してきちんとした習慣を身につける。
- ・生徒が活動時間を延長する場合は、保護者の承認を得た上で、部活動延長願を顧問を通じて学校に提出する。また顧問は部活動時間延長許可願を校長に提出し、必ず最後まで監督する。

- ・今後は、業後や帰宅後の時間の使い方について、家庭との連携を図りながら、指導していきたい。
- ・自己の身体状況を常に認識して無理のない運動量とする。活動終了の規定時刻を守る。各部は部員の健康と安全に充分留意し、年間指導計画をたてて活動させる。各部部長は部員の健康に留意させる。
- ・多忙な中、時間を割いて部活動指導をしていただくにあたって、できるだけ負担が偏らないように心掛けた。活動時間を有効に使い、安心して活動できるような環境を整える。
- ・体育館、武道場を部活動で使用する場合は、部の代表者が施錠する。職員当番は生徒の最終下校時刻の徹底を期するため、下校指導をする。生徒が最終下校時刻を越えて学校に留まる場合は、あらかじめ分かっている場合は生徒指導部に担当教員が延長願いを提出し、承認を得る必要がある。不測の場合は指導教員が教頭の承認を得て指導に当たり、施錠に責任を持つ。
- ・休日の活動は、所定の手続きを経て行い、届出許可制とする。夏季・冬季など長期休業中の活動及び合宿練習は、学校の全体計画に位置づけ、各部ごとに計画を立てて行う。
- ・運動部の対外試合参加は、校長が出場を許可したものとし、生徒の負担にならないように計画的に参加する。文化部も同様に取り扱う。
- ・運動部の活動においては、練習時間、練習量等に注意を払い、健康管理に万全を期するとともに、積極的な鍛錬の場とする。強化練習においては、健康管理に留意し、集団生活の指導を特に留意する。対外試合の参加については、参加の回数に留意し、参加者の指導と管理を適正にする。練習試合等に参加する場合、校長の許可のもとに両校間の連絡を密にして安全に留意する。

(5) その他のルールについて

- ・部長会、部顧問会での協議内容を部員に徹底させる。効率的な練習、学習時間の確保に努める。今後の合宿について検討する。
- ・部活動の統廃合・1年間全員登録制を含めルールを検討する。部活動運営に関する規定を整備する。
- ・対外活動、校外活動、校内合宿については、それぞれの内規、要項等に従って所定の手続を行う。
- ・部活動の精選に向け検討を重ねる。
- ・部活動の効果的運用を図るため、指導計画・指導方法について研究する。
- ・各部顧問は単なる技術面の指導のみでなく、部の組織、計画運営についても指導する。部活動日誌や会計簿の活用などを通じ、自主的に運営するように指導するとともに毎日の部活動を掌握する。
- ・常に危険防止に努め、事前の手当など正しい対策を立てて事にあたる。生徒の特質を把握して計画通り活動し、常に部員を掌握する。
- ・新指導要領でうたわれている部活動指導について、問題点を整理理解し、改善する必要がある。とくに、補習などの課外学習活動との位置づけや、指導費の格差については是正する必要がある。そうしたうえで、付き添い指導の徹底等安全確保に努めたい。

6 学校評価制度における意見等

- ・部活動、行事とも、子どもはそのため学校に行っている様な感じですが。部活動の参加率が高いのは、成績アップにもつながっていくと思います。部活動……で、子どもたちに協力していただきありがとうございます。
- ・部活動は活発に行われておりこの調子でお願いしたい。
- ・野球部をはじめ、吹奏楽・水泳部など多くの部活動が地域での活動に参加していることは望ましい。
- ・部活動が活発で進路実現にも良い影響を及ぼしている。
- ・多くの生徒が積極的に部活動に参加し活動している。部活動を通じて学ぶ、上下関係、先輩や先生方を敬う気持ち、みんなで気持ちをひとつにすることのすばらしさは、実社会で役立つものばかりです。寄贈いただいた備品はもちろんのこと、自分自身の持ち物も大切に部活動に励んでください。
- ・文化部にも一生懸命頑張っている生徒がいます。運動部だからといって就職に有利に成るとは限りません。生徒のやりたい部活に活かせてあげて欲しいです。
- ・部活動での成績がよいのは、生徒と先生が同じ方向を向いて活動しているからだ。
- ・部活動状況など、数年前よりかなり良くなっている。やる気のある元気な部活動顧問が多いので、中高の部活動交流を活発にしたい。
- ・学校側で情報を整理した上で、生徒の良い面を情報発信するべきである。
- ・部活動において、地道な努力が成果に表れており、勝敗だけに固執するのではなく、つまずいた生徒をフォローできるような体制もあると思う。部活動等において、仲間の大切さや教室の中では得られない「心」を教えるような指導をしてほしい。
- ・部活動が大変よく健闘している。この調子で頑張ってもらいたい。文化部の作品を交流館のロビーなどに展示してもよい。
- ・各部とも素晴らしい成果を収めており、日頃からの先生方の熱心な指導に感謝する。部活動の指導については、予算の問題もあるが、先生方以外に地域の専門家の活用を検討してほしい。
- ・部活を行う環境はどうなのか。積極的に先生が指導できるようなバックアップも必要ではないか。
- ・ホームページの更新がされるようになり開くのが楽しみになった。試合の結果にこだわらず、部活動や生徒の活動の様子がわかると良い。地元長学生との部活動交流が定期的にあってもおもしろいのではないかと思う。
- ・挨拶やマナー指導等がよく行き届きとても気持ちのよい生徒が多くなっている。授業も落ち着いて環境で行われており、部活動の成果や課外活動の素晴らしい成果につながっている。
- ・専門以外の部活動を担当することもあるが、顧問として研鑽を積んで生徒と共に励んでいただきたい。中高連携における体育大会や部活動交流では、先輩らしく堂々と高校生レベルの技術を披露していただきたい。
- ・部活動を一生懸命にやれる活性化をお願いしたい。